

2021年1月30日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

子育て支援を行う住民組織の活動についての文献検討：
活動の活性化に関連する要因に焦点をあてる
A Literature Review on Activities of Community Organizations
That Support Childcare: Focus on Possible Factors That Promote
or Hinder Their Activities

19MN010

小林亜美

要旨

「目的」本研究の目的は、子育て支援を行う住民組織の活動の活性化に関連する要因について文献検討を行い、今後の住民組織の活動の活性化に向けて検討することである。

「方法」子育て支援を行う住民組織の活動の活性化に関連する要因について記載のある文献を CiNii、医学中央雑誌 web 版 (ver.5) を用いて収集し選定を行った。選定した文献の研究結果を、「活動を減弱する要因に関するデータ」と「活動を促進する要因に関するデータ」に分けコード化を行い、サブカテゴリ及びカテゴリに統合した。

「結果」13 件の文献から、83 個のコードが抽出され、活動を減弱する要因から 48 個のコード、活動を促進する要因から 35 個のコードが抽出された。活動を減弱する要因として 8 つのカテゴリが抽出された。カテゴリは【活動に携わることへの負担感があること】、【支援の対象となる人との関わり方や対応に困る場面に遭遇したこと】、【地域の人々の暮らしや育児の状況について活動に必要な情報を得ることができないこと】、【仕事やプライベートと活動を両立することが難しいこと】、【活動の範囲が不明確であり、支援の対象となる人の生活にどこまで踏み込んで良いかわからないこと】、【住民組織内で活動についての相談や情報の共有ができていないこと】、【連携先となる関係機関と活動を行う上で連携に向けた体制が整っていないこと】、【活動について地域の人や支援の対象となる人から理解を得られていないこと】が示された。活動を促進する要因として 9 つのカテゴリが抽出された。カテゴリは【活動を通して地域の人とのつながりをもてたこと】、【活動を通して支援の対象となる人の役に立つことができたこと】、【活動を通して地域への関心や愛着、地域に貢献する思いをもてたこと】、【活動が成長や学びの機会であり、自らを向上することができたこと】、【活動に前向きな思いをもてたこと】、【これまでの経験を役立てながら活動に携わることができたこと】、【活動にやりがいをもてたこと】、【活動を通して支援の対象となる人から力づけられた体験があったこと】、【行政から必要なサポートを得られながら活動に携わることができたこと】が示された。

「結論」子育て支援を行う住民組織の活動の活性化には、活動が地域に根差していること、関係機関と連携に向けた体制が整っていること、その際に情報の共有や相談の機会があること、支援者の技術の向上、仕事やプライベートと活動の両立ができることが関連すると推測できた。また、支援者が活動を通して、役に立てたと思えることといった援助成果を得ていること、支援の対象となる人から力づけられるような体験をもつこと、支援者自身の経験を役立てられたことなどの活動の継続に繋がる動機をもつことが関連すると推測できた。